



# BL とポリコレ (ver. 0.2)

2020.7.17 Q&A と参考文献を追加しました



# はじめに

発端は、ツイッターで見かけた「ポリコレに従ったら日本の表現の自由が死ぬ」という文章です。そこでは、ポリコレなものほど売れる、という結論だったのですが。

BL の場合はかなり特殊で、真面目にポリコレ適用されたら死ぬよな....と思ったので。

ふと、ポリコレでBL が死ぬ可能性はどれくらい共有されてるんだろうかと思って、アンケートをしたら、なんかバズった(炎上した)という。

周辺の反応を眺めていて、なぜBL がポリコレに抵触するか、という事に対する理解の低い方が多いようなので、自分の理解をまとめてみました。

全くの素人なので、間違っている部分もあるかと思いますが、数時間で作ったので内容や議論が雑でしょうが、御容赦ください。



## 問題を明確にするために

この先を読む前に、以下の2つの事を認識してもらえませんか。

ゲイは非常に強い差別と偏見に晒されています。法律で犯罪となる国もあり、宗教でも存在を否定され、日本でも結婚することすらできません。人種差別などと違い、家族ですら同志ではありません。そのような強い差別性を頭の隅において下さい。

ポリコレでは、当事者とそれ以外、という分け方をする事があります。

例えどのようなマイノリティ属性をお持ちであっても、BLで扱う当事者(ゲイ/バイ男性)以外は、それ以外(マジョリティ枠)になります。

もしよかったら、「私はこの問題に関してはマジョリティ」と3回唱えてから先へ進んでください。

強くいえば、これは人権侵害に関する、ゲイ対社会全体の訴訟のようなものです。原告席に座れない方は被告席に座るしかないという事です。



# ポリコレって？

英語では political correctness で、直訳すると「政治的正当性」などになるようです。

日本語では、ポリティカル・コレクトネス、ポリコレ、PC などと表記します。

wikipedia によると、「性別・人種・民族・宗教などに基づく差別・偏見を防ぐ目的で、政治的・社会的に公正・中立な言葉や表現を使用することを指す」だそうです。

性別と職業が結びついているという偏見をなくすために、「看護婦」のかわりに「看護師」という言葉を使いましょう、というのが古くからある典型例です。

現在では、「表現」がかなり広い範囲までおよぶと解釈されていて、様々な分野で使われる用語です。



## ポリコレの例：ブラックフェイス

- ・黒人以外の俳優が、顔を黒く塗って黒人役を演じる事
- ・アメリカや西欧ではポリコレによって、ほぼ完全なタブー
- ・ロシアではまだ平気みたいです。バレエで黒塗りやってました。
- ・日本でも問題視されています。2018年の「[オセロー](#)」ではかなり話題になりました
- ・wikipediaの説明は[こちら](#)



## 黒塗りの何がいけないの？

昔、アメリカで、黒人に対して差別的な「 minstrel show 」を白人が行っていて、その中で黒人役を演じたのが、顔を黒く塗った役者だったから。

ここで理解して欲しいのは以下の2つです。

- ・マイノリティーを戯画化した非当事者向けのエンターテインメントは、BLと同じ構造
- ・50年以上前に終わっているのに、遠く離れた現代日本ですらタブー



# BLって？

定義が難しいですが、今回は「女性による女性のためのゲイテーマ作品」と雑に括って、時代、エロの有無、商業と同人の差、などには立ち入らない事にします。

## 歴史的な状況

- ・男二人に女(それ以外も)が萌えるのは有史依頼の伝統、というか、多分、自然の摂理
- ・70-80年代に、耽美、JUNE、やおい、などの用語で呼ばれる作品群が発生
- ・1990年代: BLという単語が発生し、人口に膾炙する
- ・2000年代: 一般のゲイ作品をマーケティングする時にも、「BL映画」のように使いだされた



## 昔々の BL は、今思うと PC ではなかったよね .....

- ・禁断の愛、背德的だからこそ萌える
- ・男が好きなんじゃない、お前が好きなんだ
- ・攻めは男性的／年上、受けは女性的／年下というステレオタイプ
- ・未成年、レイプ上等
- ・心中最高、男同士に現世の幸せなんてない、そこがいい
- ・「ホモ」という差別用語の使用
- ・BL は美しいけど、リアゲイはキモい

これに minstrel show との類似を見出すのは難しくないと思います。



# 今の BL は違うじゃん！

うん、それな！ブラックフェイス関連で言って、世界中のポリコレ棒粉碎してきて！

マジで、50年以上前にアメリカ白人がさんざん馬鹿やってきたからって、極東のちっちゃな公演で客席に黒人さんが一人もいないような状況でさえ、ブラックフェイス禁止とか、意味わかんないよね！  
表現の自由はないわけ？

などと内心で思ったりする事もあるんですが、これがポリコレの一側面です

差別／弾圧の歴史があったら、社会の全員で末代まで責任をとり続けなくてはいけない

多数者の不便よりも、少数者の利益が圧倒的に重要である、という思想ですね



## ポリコレとか言われてもさあ .....

- ・BLは女性向けなんだから、他の人が見に来て文句言っても....
- ・ファンタジーなんだからリアルと別なのは当たり前でしょ....
- ・そもそもデリケートなジャンル内に、他人が踏み込んできて欲しくないよね....

そうですねえ。正直わかります。

個人的にはゾーニングがしっかりしてれば、それで十分だと思うところもあるんですが。

でも、これらを、ブラックフェイス問題に置き換えるとどうなるでしょうか。



# 俺は白人なんだけどさあ

- ・わざわざ minstrel show を見に来て文句言う黒人がバカじゃね？
  - ・っていうか、あれがリアルな黒人じゃないことぐらい誰が見たってわかるからオッケーだろ
  - ・そもそも、白人専用の劇場作ってるんだから、黒人が入ってくる事が不愉快極まりないんだよな  
みたいになるわけじゃないですか。
- こちらがポリコレ的に完全アウトになるのはわかりますよね。
- 程度の違いはあれ、構造的にはBLでも同じ状況なわけです。



## ここまでのまとめ

過去のBLにはポリティカル・コレクトネスを考えると問題があり、ただそれだけの理由でも、現在も問題視する事が可能だ、という事がわかりいただけたでしょうか。

BLとポリコレの関わりの中では、明確にアウトな過去の事例、という位置付けになりますかね。

ここからは、現在の話を紹介します。



# 様々なポリコレの紹介

- ・正確な描写
- ・偏見の助長を避ける
- ・当事者の雇用
- ・文化盗用

まだまだ他にもあるでしょうが.....



## 正確な描写

マイノリティを描写する際には、できるだけ正確に行う、という事です。

黒人の唇を変に分厚く描いて戯画化しない、というのはすぐにわかるでしょうが、逆もダメです。

カップヌードルのCMで、大阪なおみさんの肌の色が薄く塗られていた事が問題になりましたね。

最近では「風と共に去りぬ」の配信停止騒動があり、黒人女中が楽しそうに生活してる描写が問題になりました。まるで、奴隷制度が楽しかったというような誤解を与える間違った描写だからです。



## 偏見の助長を避ける

偏見を助長するような描写は、(現実に即しているとしても)避けるべきです。

例えば、男性は仕事に行き、女性は家事をする、みたいな偏見がいまだにあります。

そのため、(世の中にどれだけ沢山の専業主婦がいようと)フィクションで家事を描くときには、男性が家事を分担をしている姿を入れるのが望ましい、というのがポリコレ的な態度です。

偏見に対して、現実と同様では満足せず、偏見を打ち消すためのものを描写する、という事ですね。



## 当事者の雇用

マイノリティが関わる職業に関しては、当事者の雇用を優先するという発想があります。

最近話題になっているのは、映画などの配役で、トランスジェンダーの役には、トランスジェンダーの役者さんを配役すべきだ、という議論です。

同様に、人種的にも、黒人の役を白人がやることは望ましくない、というような流れもあります。  
(誤解される事がありますが、雇用弱者である黒人が白人の役をやることには制限はかかりません)

ミュージカル「ヘアスプレー」の製作陣が、今後は人種にこだわったキャスティングをするというコメントを出しましたが、日本公演はどうなるんでしょうね。



# 文化盗用

wikipedia によれば、ある文化圏の要素を他の文化圏の者が流用する行為、だそうです。

キム・カーダシアンが「KIMONO」というブランドを立ち上げようとして、これで叩かれましたね。

「アナと雪の女王」ではサーミ族の文化を流用した表現が問題になり、続編では、サーミ族と正式に契約をして、監修を受けて映画を作ったそうです。

ある文化を商売に用いる事は、本来その文化が受けるべき利益を盗んだ事になるから、それに相当しそうな分を支援団体への寄付などで補償するというパターンもあるようです。



## では、これらを BL に適用すると？

- ・正確な描写
- ・偏見の助長を避ける
- ・当事者の雇用
- ・文化盗用



## 正確な描写( BL において) (1/2)

BL はファンタジーだから、描写は○○でいい、という逃げが通用しなくなります。

男性を描写するときに、(ゲイが嫌がるような)変化をさせてはいけないわけです。困った事に、ゲイの好む容姿と、腐女子の好む容姿には、大きなズレがありますよね。

外見、性行動などの描写にリアリズムが求められると、体毛を描かないのは黒人の肌色を白くするのと同じだ、みたいな議論があってもおかしくないわけです。

男の尻を三人分書いて誰もケツ毛がないなんて確率的におかしいとか、このキャラならジムに通って鍛えているはずだから筋肉量を増やせとか、どの本でも毎回毎回アナルセックスするのはおかしいとか。

ちょっとどうかという例も出しましたが、大阪選手の時のように正確性への要求は高まっています。



## 正確な描写( BL において) (2/2)

雑な言い方ですが、「安易な幸福描写」はダメです。

え？なんでそれが？と思うかもしれません。

「風と共に去りぬ」を思い出してください。現代日本設定で描く場合には、現代日本のゲイが置かれている社会的抑圧を描かないと、その事がマイノリティの受けている抑圧に対する軽視になります。他の時空の設定でも同様です。(差別の透明化という用語があるそうです)

その点において、PCにかなり気を使っている作品が、よしながふみ「きのう何食べた？」ではないかと思っています。日常のあちこちに差別と偏見が描かれています。



## 偏見の助長を避ける( BL において)

ゲイに対する偏見の中で大きなものの一つとして、男役と女役がある、というのがあります。

この偏見を助長するような描写は避けるべきだ、というのがポリコレ的態度です。

もちろん、実際には男役と女役のような役割分担のあるカップルもいますが、それとは別なのです。

ドラッグの売人は黒人、という偏見があるので、実際にどれだけの黒人売人がいようと、フィクションの中では必然性がない限り黒人を配役しないのがポリコレだ、という事です。

そう考えると、役割を固定した描写は、それだけでポリコレに抵触します。

これが、攻め受け役割固定がポリコレに抵触する理由のひとつです。



## 文化盗用（BLにおいて）

当事者以外がゲイ文化を作品に利用するな、という事になります。

真面目に対応すれば、商業媒体でBLを出す事はかなり難しくなるでしょう。

出版社がゲイ団体などと契約をして監修を受ける、などの方法はあるかもしれません。



## 当事者の雇用（BLにおいて）

徹底すると、作家は当事者じゃなきゃいけないという事になります。つまり、女性作家は廃業です。

さすがにそこまで極端な話はおきないでしょうが、ゲイ作家の割合を増やせというのはありえます。

アメリカの児童文学（YA）系では、似たような問題提起がおきています。

（[「誰がクィアの物語を書くべきか？」](#)、[英語版](#)）

ゲイテーマの作品なら当事者の著者を優先せよ、というだけではなく、非当事者が似たネタを先に出したら、同ネタを後から出すのが難しいからやめろ、というような問題にも言及しています。



## まとめ：BL に抵触するポリコレ

- ・商業作品を非当事者が制作すると雇用問題が発生
- ・非当事者が発行すると文化盗用
- ・描写の不正確さ(「BL はファンタジー」はアウト、差別の透明化)
- ・社会的偏見の助長(攻め受けシステムなど)

思いついたものを挙げただけなので、まだまだ、他にもあるでしょう。

もし、このうちどれか一つにでも正当性を感じられたら、BL はポリコレに抵触するという事です。これが、冒頭で述べた「真面目にポリコレ適用されたらBL は死ぬかも」という話なのでした。



## 良いニュース (1/2)

実際には激しい規制は起こらないでしょう。

ひとつには、BLに触れるゲイで文句のある人は絶対数が少ないからです。商業的な観点からはゲイを無視して、腐女子を狙うのが正しい戦略なので、業界が率先して行動する可能性も少ないでしょう。

アメリカでの動きが波及するというのはあるかもしれませんが。だんだんとBLがM/Mに近くなっていくという、緩やかなポリコレ適応は、誰にとっても受け入れやすそうです。

もしかしたら、オメガバースは大丈夫かもしれません。

完全なフィクション世界だから、という言い訳が通用する可能性があります。

(個人的には、ポリコレ的にM/Mで書けない話がオメガバースでは書けるというのが、アメリカで流行った理由じゃないかと思っているのですが、与太話です。)



## 良いニュース (2/2)

「風と共に去りぬ」は1939年に制作され、大ヒットして、80年が経過してから、差別的な表現を含むので注釈なしでは上映する事ができない作品だという評価になったわけです。

最初に出した、昔々のBLの例は30年ぐらい前ですかね。なので、現在のBLがポリコレ的にアウトだと言われるのにも、あと30年ぐらいはかかるかもしれません。

よほどヒットでもしなければ、30年経ってから、自分が好きだった作品の差別性と対面する、という事にはならないですむのではないのでしょうか。



## 悪いニュース

腐女子がポリコレ的な事を言うと、BLをどうにかするまで黙ってろ、と言われるかもしれません。

この予測については、[「twitterのBLポリコレ論争が面白すぎる」](#)が参考になるでしょう。

下賤な書き方ですが、ポリコレ全盛の現代で「女性」というカードが強力なのを体験している方もいらっしゃるでしょう。しかし、「ゲイ」は被差別性において遥かに強力なカードです。そのため、ポリコレの話をする「ゲイでミストレル・ショーをやってる奴らは黙ってろ」というポリコレ棒で殴りかえされるかもしれません。

可能ならば「現代のBLは、マイノリティーを戯画化した非当事者によるエンターテイメントにはあたらない」というロジカルな反論を用意できるといいでしょうね。



## 最後に、アンケートを再び

BL自体、あるいはBLにおける攻受固定描写がポリコレに抵触するという理屈を理解されましたか？

- ・理解したし、問題であるとも思う
- ・理解はしたが、特に問題ではないと思う
- ・やはり、理解できなかった

もし、このスライドが何かの考えのきっかけにでもなれば幸いです。

それでは、みなさま、楽しいBLライフを。



# Q & A

ネットをぱらぱらと見回ったりして、Q&Aの形で補足しておいた方がいいかも、  
と思った事をいくつか。



## Q. ポリコレって、内部で矛盾してませんか？

その通りだと思いますが、そもそも、「正しい描写」をポリコレが提供してくれるわけではなく、これはこういう視点においては間違っているという指摘があるだけです。

女性の家事の例で言えば、

- ・専業主婦を描写 → 偏見
- ・男性が家事をやる描写 → 透明化

どちらにもダメな理由があるわけです。

現代日本においては、家事は女性の役割だという圧力があると記述した上で、男性が家事を分担する描写をする、というのが両方を考慮した比較的ポリコレな描写になるのではないかと思います。

BL の例で言えば、「きのう何食べた？」の1巻のシロさんが、ネコなんだけど女役扱いには怒るというのは13年前の作品としてはよく考えられた描写ではないかと思います。



## Q. 女性は社会的弱者なんだから許されるのでは

人権侵害問題で被告席に座っている人に、その人が別種のマイノリティだからと言って罪が軽くなる余地はありません。

もちろん、情状酌量で刑が軽くなる可能性はありますが、それは罪が軽くなるという事とは別ですので、BLが「ポリコレか」という事とは別の話です。

また、現在のポリコレ的世界観では、女性の弱者性よりも、性的マイノリティの弱者性の方が、圧倒的に重要視されている事は理解しておいた方がいいでしょう。



Q. BL による私たちの救いを奪わないで

それはポリコレに言ってください！

個人的には、ポリコレが暴走すると誰しも困るケースが出てきそうなのを実感してくれるといいな、と思っていますので、その感想は大変に嬉しいです。



## Q. BL にもポジティブな面があるからオツケーでは

自分も BL に助けられてきたひとりです。

当事者として、エンパワメントとして働いている部分もあると、はっきり言えます。

ただし、それは、ポリコレに抵触するかどうかとは全く別の問題です。

もっと言えば、「風と共に去りぬ」のように、公開当時はエンパワメントの色合いが強かった(黒人として初のアカデミー賞を受賞しています)ものが、後になって否定されるという事もおこります。

個人的には、ポリコレ的にはここらへんがまずい、一方で、当事者へのエンパワメントとしての働きもある、というような、長所短所のバランスを考えて、どのような作品が生き残るかが考えられていくといいなと思っています。



## Q. BL に対して好意的なゲイもいます

それはポリコレに抵触するかどうかとは、なんの関係ありません。

極端な事を言えば、ポリコレにおいては当事者の意志すらどうでもいいのです。

社会全体を良くするために差別偏見にどう立ち向かうか、という事なので、当事者が個人レベルでどう思うかはほぼ無関係です。「政治的」という名称は、そういう部分から由来しているのではないのでしょうか。

最近の例では、ゲームの「Ghost of Tsushima」の日本描写に非当事者から批判が出ているようです。多分、日本人はああいうサムライ描写はあまり気にしないというか、かえって喜んでプレイする人も多いと思うのですが。



## Q. 嘲笑的ではないのでミントレルショーとは違う

直接的にある種のゲイを嘲笑している作品もあります。

また、直接の嘲笑ではありませんが、間接的には嘲笑にあたるでしょう。

BL に登場する人物達が、非常に特殊な類型のゲイに限られているという事を認識してください。それは、そこに登場しない類型のゲイを排斥しているという事です。

ジャンル全体のほぼ全ての女性登場人物が巨乳である場合、そのジャンルは貧乳の女性に対する排斥を含んでいるといえれば理解できるでしょうか。(巨乳貧乳がポリコレアウトな単語ですみません)

もちろん、単なる排斥と嘲笑は違います。上であげたケース以上に排斥が嘲笑的であるというに関しては次のQ&Aをご覧ください。



## Q. 腐女子はゲイに好意的だからポリコレセーフ(1/2)

大きな勘違いがたくさんあります。

まず、好意の有無は差別的かどうかの判定とは完全に無関係です。  
ミンスレルショーの興行主の中に好意の人がいたからオーケーという主張は通りません。

また、多くの腐女子はゲイに好意的なわけではありません。勘違いしないでください。  
「ゲイ文化の中に勝手に見出した表象を、自分たちに都合よく改変した物」が好きなだけです。

「ケツ毛ありの受けとか無理なんだよね～」みたいな、ある種のゲイ表象に対する嫌悪感を表明する事の差別性は明白だと思いますが、そこまで愚かな行動をしなくても、腐女子のゲイに対する「好意」が類似の嘲笑性を含んでいる事は多いです。



## Q. 腐女子はゲイに好意的だからポリコレセーフ(2/2)

例に出して大変申し訳ないのですが、ゲイ向けアダルトビデオの老舗であるサムソンビデオの[ページ](#)を(クリックは自己責任で)ご覧になってください。

もし、これを見て、ちょっとでも「無理」と思ったら、自分に「どんな『ゲイ』なら好きなのか」と問いかけて、偏見と向き合ってください。

最後に、たとえゲイ文化に対して深い理解と尊重をもって表現をしていたとしてさえ、非当事者による表現はクィア・ベイティングという謗りをうけるという事も知っておいてください。



## Q. 私たちはゲイが好きだから文化に影響を受けているだけ

全く違います。

自分の体をはって真似しているわけではなくて、遠い位置から消費しているだけです。

ヒップホップ文化が黒人的表象を取り入れている事などとは本質的な差があります。ゲイの文化に影響を受ける  
と言うのは、例えば短髪にしてジムに通ってイカニモなガチムチになるとかですかね。

さらに言えば、そのようなマイノリティ表象の流用にすら問題があるというのが、現在のポリコレの立場です。



## Q. それでも自分は BL はポリコレに抵触しないと思う

ポリコレかどうかは、あなたが決めることではありません。アメリカを中心とした社会が決めることです。(個人的には、大変歪んでいると思いますが、その是非を考えるスライドではありません)

せっかくの機会ですから、判定をしてもらいますか？

こちらで、ポリコレに抵触すると思われる作品の抜粋と、英語による説明資料、ゲイに関心の高い人権団体の問合せ窓口を用意とします。

「BLはポリコレ的に正しい」と思う方々は、「こんな馬鹿なことを言っている人がいるんですが、私たちの方が正しいですね？」と、その窓口で連名で資料を送って、回答をもらってください。

人権団体側にひやかしたと思われるので、署名運動のようにある程度の自己開示をした連名の形がいいと思います。もし、賛同者が100名以上集まるようなら、夏休みに本気で資料作成する事を考えますので、取りまとめてご連絡ください。(BL をポリコレ棒で叩きたいだけの方はご遠慮ください)



## Q. BL に消えて欲しいんでしょ？

BL を消滅させたいなら、こんなローカルで話をする事に無駄な時間なんか使わないですよ。

さっき書いたように、アメリカの意識高い系ゲイあたりに問題意識を共有してもらって、当事者の正義を振りかざして大勢力で叩くとか、いくらでもやり方あるでしょ？

オリンピックで世界中から未成年もあつまるとのに、全年齢にこんなものを売ってていいのか !とか。



## Q. じゃあ、なんでこんなスライド作ってるの？

なんでですかね。なりゆきというか。

多分、「頼むから、指数増大現象は片対数グラフにプロットしてくれ！」と叫ぶのと一緒です。

日本のメディアが、どこもかしこもコロナの陽性者数を通常軸でプロットしているのを見てると、泣きそうになりませんか？

自分にとって明らかな知識を他人が全く共有していない事に絶望を感じるからです。

カッコつけさせてもらえば、「義務だと思ったからよ」ですかね。供王珠晶のセリフですが。

片対数グラフについては、世間に山ほど解説がありますが、BL とポリコレについて書いてあるものはみつからなかったの、ここは自分が書いておくといいのかなと。

ヘビースモーカーが喫煙の害を説いて、一般人に迷惑な間接喫煙をやめさせようとしている、みたいな部分もあるかも。

# 参考文献

- [B] 美術手帖 2014年 12月号 特集 ポーイズラブ --"関係性"の表現をほどく、美術出版社、2014
- [KNO] 金田淳子、二村ヒトシ、岡田育、オトコのカラダはキモチいい、KADOKAWA メディアファクトリー、2015
- [N1] 中島梓、美少年学入門、筑摩書房、1984
- [N2] 中島梓、わが心のフラッシュマン、筑摩書房、1988
- [N3] 中島梓、コミュニケーション不全症候群、筑摩書房、1991
- [N4] 中島梓、タナトスの子供たち--過剰適応の生態学、筑摩書房、1998
- [SS] キャスリン・サーモン&ドナルド・サイモンズ、女だけが楽しむ「ポルノ」の秘密、新潮社2004
- [T] 田亀源五郎編、ゲイカルチャーの未来へ、Pヴァイン、2017
- [P] ジェローム・ポーレン、LGBT ヒストリーブック --絶対に諦めなかった人々の100年の闘い、サウザンブックス、2019
- [W] ジェームズ・ウェルカー編、BL が開く扉 --変容するアジアのセクシュアリティとジェンダー、青土社、2019
- [Y] よしながふみ対談集、あのひととここだけのおしゃべり、太田出版2007



# おまけ

普通はご意見ご感想を募集するんですが、いたしません。対応できないと思うので。

それでも、ご意見を送りたいという方は次のページをチェックしてから送ってください。

返信するかどうかは、相手と内容とこちらの都合次第です。

マイノリティの話題においては当然の事ですが、当事者への返信は比較的優先しますし、非当事者のマジョリティ枠の方へは対応しきれないと思います。



## おまけ：マイノリティとの議論における禁止事項

よくあるケースには、フェミニズムの方などが名前をつけてくれていますので、調べてくださいね。

- ・確かにこれも問題かもしれないけど、他にも....（問題のすり替え）
- ・こういう話があるのを知っていますか？（マンスプレイニング）
- ・わからないでもないけど、言い方がちょっと....（トーンポリシング）
- ・腐女子に言わず、ゲイが頑張ればいいのでは....（平等と公平の違い）
- ・お前の言っている事は違う.....（マイノリティの告発のマジョリティによる否定）